

第2章

本学教官の「学生による授業評価」等の実施状況に関する調査結果

本委員会は、平成9年（1997年）7月2日から11日にかけて、各教官に対し「学生による授業評価」等の実施状況に関するアンケートを行った。回答の内容は、原文をそのまま掲載してあるのでご覧頂くことにして、ここでは若干のコメントを加えるに留める。

(1) 各教官の実施状況

アンケートの回収率は、対象者全教官108名中61名、約56%である。また、回答中「学生による授業評価」等を実施した経験を持つ者は62%であった。即ち、回答者の過半数、あるいは、（若し、未回答の者全員が実施経験を持たなかったとしても）全教官の3割以上の者が何らかの形で、自己の授業に対する学生の意見を聴取していることになる。

(2) 実施の効果

学生に対する意見聴取の効果については、「授業改善のために大変、又は多少役に立った」とする者が97%を占め、「役に立たなかった」とする者は1名もいない。しかし同時に、多くの教官が、より効果的な調査方法の模索に苦慮している様子も浮かび上がってきている。

その詳細は回答結果を参照して頂きたいが、代表的な悩みとしては、①記名式にすれば迎合的な意見が増え、無記名にすれば無責任な意見が増える事、②欠席者からの意見が聴取できない一方、殆ど出席しない学生の意見にどれだけの価値があるか疑わしい事、③あい矛盾する意見が出された場合、その対応が悩ましい事、などである。

(3) 「学生による授業評価」を全学的に実施することに対する自由意見

「学生による授業評価」そのものについては肯定的な意見が大勢を占めたが、その具体的方法に関しては、上記(2)にも示された悩みを反映し、記名式か無記名式か、全学統一式か学科別形式か、希望教官のみか悉皆式か等々、様々な意見が出されている。

また、調査結果の利用法に関しては、授業改善以外の「目的外利用」（とりわけ、昇任人事における資料として用いられる事）に対する危惧が示されている。この点は、昨年度、本学において「学生による授業評価」が検討課題になった時点から本学の底流に存在する危惧である。

さらに一部に、「学生による授業評価」そのものに対する強い批判、即ち、現状における授業評価の導入は、上からの管理統制に対する迎合であって、自由な研究と教育を阻害する結果をもたらす、とする批判が存在する事も忘れてはなるまい。

資料1 「学生による授業評価」等の実施状況に関する調査集計表

	構成員	回答数	回答率	設問Ⅰ(アンケート実施)	
				実施したことがある	実施したことがない
経済学科	20	14	70.00	7	7
% (回答/回答数)				50.00	50.00
商学科	23	9	39.13	7	2
% (回答/回答数)				77.78	22.22
企業法学科	18	12	66.67	6	6
% (回答/回答数)				50.00	50.00
社会情報学科	15	8	53.33	4	4
% (回答/回答数)				50.00	50.00
一般教育系	12	9	75.00	6	3
% (回答/回答数)				66.67	33.33
言語センター	20	9	45.00	8	1
% (回答/回答数)				88.89	11.11
計	108	61	56.48	38	23
% (回答/回答数)				62.30	37.70

注：実施期間中の出張者及び各学科系の助手は構成員から除いた。

	設問Ⅱ (実施した方にお尋ねします)						
	(1) 間 隔		(2) 適切か		(3) 授業の改善に		
	毎年	随時	適切	不適切	大変役立つ	多少役立つ	役立たない
経済学科	6	1	6		3	2	
% (回答/回答数)	42.86	7.14	42.86		21.43	14.29	
商学科	2	5	5	3		7	
% (回答/回答数)	22.22	55.56	55.56	33.33		77.78	
企業法学科	2	3	2	3	1	4	
% (回答/回答数)	16.67	25.00	16.67	25.00	8.33	33.33	
社会情報学科	1	3	2	3	1	3	
% (回答/回答数)	12.50	37.50	25.00	37.50	12.50	37.50	
一般教育系	3	3	1	4	1	4	
% (回答/回答数)	33.33	33.33	11.11	44.44	11.11	44.44	
言語センター	4	4	2	3	4	5	
% (回答/回答数)	44.44	44.44	22.22	33.33	44.44	55.56	
計	18	19	18	16	10	25	
% (回答/回答数)	29.51	31.15	29.51	26.23	16.39	40.98	

資料2 「学生による授業評価」等の実施状況に関する調査結果（記入意見）

設問Ⅱの(4) 実施した際、どのような問題点が生じたか。

- * 試験のときに実習の感想（5点）を書いてもらった。試験としては適切でないと考えて1度だけでやめた。
- * マークシートに記入させたが、マークシートを読み取り集計するソフトが無い。
- * 集計が実に面倒くさい。マークセンスでできれば楽なのと思った。
- * 集計に多少時間を必要とします。
- * 問題はない。
- * 試験の答案用紙末尾に書かせたので、内容的に遠慮がちであった。実施するなら、別用紙にて氏名記入は任意とすべきであった。
- * 無記名で 1) 良かった点, 2) 悪かった点(改善してほしい点), 3) その他何でもという3項目にわたって、30分ほど時間をかけて感想文を最後の授業時間に書かせています。大方の学生はまじめな対応をしていますが、5%ほどはいいかげんな回答や不適切な要望等がありました。
- * たまたまその時に授業に出てきた学生が評価に加わったこともあり、学生全体の「正しい」評価を抽出するのに問題があった。
- * 学生からの注文が授業内容に関するものというより、施設等に関するものに偏った。
- * 講義の進捗に対して、十分であると答える学生と早すぎると答える学生に2極分化していることがアンケートの実施により判明した。しかし、実際にどちらの学生に焦点を置くかで悩んでいる。
- * アンケートではなくコメントとして返却を旨としていたが、人数が100人をこえており、こちらの返事をつけての返却が事実上困難となっている。学生には申しわけなく思っている。
- * 最後の時間に無記名で実施したため、一部学生はかなりいい加減な答えを書いていた。
- * 最終試験のときに答案と一緒に書かせて提出を求めているので、回答にやや迎合的な内容が多い(試験の点数に影響するとも思っているのか)。よく授業に出席している学生はたしかに批判的な目をもっている者が多い。しかし、それを表現する方法がよくわからない様である。授業評価は学生にとっても何度も繰り返すことになり、コツを習得するのではないだろうか。
- * 年に1~2回出席を取る際に好きな事を書かせているため(記名式のため)、授業内容に対する批判的見解が少ない。
- * 生産的でない非難, 中傷をかかれて不愉快だった。
- * 出席をとっていないので、出席した上で評価する者と全く出席しないで適当に記入する者との区別ができない。記名式だとどうしても心証をよくしようとする者ばかりになる。
- * 日常出席しない学生が注文をつけてきた。授業に出ない学生がどのようにして評価を行うの

か疑問である。

- * テストの中で行うと、成績評価を気にしたものばかりであった。無記名のものを数年前に教務が行っているがいかげんのものが多かった。また筆跡、語調等で判別できた。
- * (1) 欠席者からの意見が取れない。しかし、欠席をしているのだから、受講の意志なしと見なせると考えるが、果たしてこれで良いものか。(2) 記名式で実施しているが、厳しい意見も散見する。教官と学生の間で信頼感がないと厳しくは書けないかもしれない。
- * 特に問題となる点はなかった。
- * 授業を行ってきた教官を前にしてであるし、テストの成績評価の前であるため、書きたいことも書けないと思われる。
- * 出席とりを兼ねて、記名式としたので、迎合的な意見がみられる。その逆もある。
- * 試験時に行ったため、普段から出席している学生とそうでない学生との区別がつかない。試験がうまくできなかった学生が悪い評価をすることが多い。
- * 欠席の多い学生（アンケート実施日にも不在）の意識が不明。
- * クラスでの活動が何種類もある場合、その活動に対する学生のフィードバックが取れますが、欠席が多い学生がたまたま出てきて評価するため、有効とは考えられない面も出て来ます。現在無記名で行っていますが、記名させるとリップサービスを行うのではないかと思います。
- * 試験の際、任意で（点数には含めず）感想を書かせたが、それなりに考えさせられる意見も得られた反面、この形では必ずしも率直な批判は出て来にくいであろう。
- * 教育が、学生のその時々気分、好悪、打算に迎合してしまう危険性がある。学生も社会の縮図であり決して過度に美化されるべきではない。
- * まじめに答えない「単位くれ〜！」などが少数（1, 2名）ながら各クラスにいた。
- * ①まともな授業をしていれば、学生の回答は概して誠意に溢れている。この点は100%断言できる。②気が付かない問題点が明らかになってよい。③「問題点」と言えるのは、適切な質問項目の作成が必ずしも容易ではないこと（衆知を集める必要あり）。また、統計的処理法には専門的知識に基づく必要があり、この点心もとないこと、ぐらいだろうか。

設問Ⅲ 「学生による授業評価」を全学的に実施することについて、ご意見がありましたらお寄せください。

- * 大変良い。アメリカの大学で自分も授業評価をうけたことがある。その時、経験の長い先生から聞いたところでは、10~25%の学生はまじめに回答しないそうである。残りの学生の回答は参考になるようである。「先生が学生の関心を深めるような努力をしているのか」あるいは「学生がせっかく買った教科書が無駄にならぬような教科書に沿った授業をしているのか」など、学生の要望にかかわる項目などは素直に学生の評価が表れているという印象を持った。本学でも是非やりましょう。

- * 教官それぞれによって質問したい項目が異なるので中々むずかしいと思います。
- * 1. 授業内容の改善にいくらかは役立つように思います。2. 昨年度に自己評価委員会が提示した質問内容は、あまりに一般的（項目によっては抽象的）すぎます。仮に評価が実施されたとしても、個々の科目において具体的な改善策が浮ばないとの印象をもちました。全科目に共通な質問項目と各専門での質問項目とに分ける必要があるかと思います。3. 集計結果の利用目的、公表範囲等について、事前に十分検討されることを望みます。
- * 当然のことなので、早く実施してほしい。
- * 是非実施すべきだと思います。そして、その結果についても教官以外が集計して公表すべきと考えます。
- * 早くすべきだ。
- * ①原票の目的外使用を原則禁止すべきだと思います。目的外使用の必要が生じた場合は個別案件ごとに教授会了承が必要だと思います。②学科特有の必要から共通質問以外の質問項目を設ける余地があってもよいと思います。
- * 現在、我々は授業に関する限り他者の評価を全く受けていない状況にあり、このような制度の中で質の高い教育が提供されない危険性があるのは明らかであります。1回切りのアンケート調査の肯否を問うのではなく、一定期間を通じた傾向的な分析を念頭において考えていくべきだと思います。
- * ①自由に参加している専門の授業と、「強制」参加になっている語学の授業を比較して、良否を言えない。アンケートのとり方を工夫してほしい。②アンケートの結果を、昇任や業績評価に使うのは反対です。その保管をよく考えてほしい。
- * 学生に評価されることに若干抵抗はおぼえます。しかし、授業料に対する対価として、講義をおこなっているという観点からは評価もやむをえないと考えています。
- * 昇任の資料に使わないで頂きたい。
- * 設問等も含め、各学科の自主性にまかせたらよいと思う。
- * 「学生による授業評価」の目的を明文化して頂きたい。その際、より良い授業形成が目的であるならば、具体的実施主体は教務委員会に委ねるべきであると考えます。なお、その後のデータ利用についても明文化して頂きたい。
- * 「授業評価」の目的をはっきりさせる必要があると思います。授業改善のためか、それとも「評価」それ自体を目的とし、たとえば教員の業績評価に加えるため、なのかということです。
- * 個人的には賛成です。しかし、授業評価は学生の授業に対する真剣な態度があってはじめて妥当なものとなると思います。単位が取得しやすいとか、出席をとらないとか、そういった安易な姿勢が授業の高い評価につながることはないよう、慎重な配慮が必要かと思います。
- * 教官独自に行うほうが結果を受容しやすい。
- * 学生自身による評価をどのように解釈するかは、様々な要因が存在し、容易ではない。特に

科目が1教官で講義されている場合と、同一科目を複数の教官で講義されている場合とでは、アンケートの意味がおのずと違って来るであろう。

- * やり方によると思われるが、必修科目等は不利な評価も多かろう。また大人数講義もそうである。学生とのコミュニケーションは必要ではある。全学的とは統一的ということであろうか。ならば、フォーマット、取扱いについて十分な検討と配慮が必要である。場合によっては、教員がノルマ負担の増加をますます敬遠することになるろう。
- * 実施すること自体はきわめて有意義である。しかし、実施した結果については時間をかけて分析する必要があると思われる。
- * 賛成する。時代の要請である。
- * 適切な評価・実施方法の確立がまず第1と考えます。実施にあたっては授業評価の本来の主旨を学生に周知徹底することが必要であろう。
- * 賛成。但し、講義に少なくとも2/3以上出席している学生からの評価に限るべき。
- * ①全学的に実施することが望ましい。②①を最初から実現することは困難とも思われるので、さしあたり部分的（希望する教官から、又は希望する学科において）に実施し、実験を重ね、よりよい方法を追求することが必要である。自己評価委員会はその動きを促進すべきである。③最初から方法論にこだわって、そのところで時間を費やすのはナンセンス（自己評価委員会の欠点）。この問題は教官や学生が何度も試みることによって、適切な評価の方法を発見し、評価の方法に慣れることによって、よりよい解決を見い出すことができる性格のものである。“経験から学ぶ”ことを忘れてはならない。我々も学生から評価をうけることを恐れてはならない。
- * アンケート項目の設定がむずかしかろう。特に結果の利用法に十分な配慮が必要と思う。諸条件の異なる外国（特にアメリカ）の単純な物真似は多くの弊害をもたらす危険性がある。
- * 導入自体は賛成。以下は方法につき私見。生産的でない非難、中傷をかかれて不愉快だったというクラスもあるが、無記名は厳守すべき。出席している学生のみに評価させるべき。単位さえもらえばよいと思っている者に、評価の資格なし。項目は立てない方がよいと思う。自由記述とすべき。集計などしなくてもよい。
- * 設問項目のくみたてなど、分析するためパイロット調査をした上で、意味のある回答が出るよう工夫するとよい。おざなり調査なら協力する気はありません。回答は各教官が最終的に見て改善に役立てたらよいが、回収は事務サイドで、匿名になりうるようなやり方で行うのが望ましい。
- * 非常に良い試みと思いますが、評価方法が単に単位がとりやすいとか、何だかよくわからないが面白いというだけで高評価を得るようなことのない工夫が必要だと思います（当然のことではあります）。
- * そろそろ実施を考えてよい時期ではないか。

- * あまり必要とは思わない。まともな教官なら、それぞれの方針に基づいて、大学における教育として望ましいと信じる授業を常に行っているはずだし、より良い授業を常に志しているはず。但し、全学的な授業評価の試みが風潮として求められていることは理解する。だから位置づけや結果を過大視しないことを条件に実施を一応了承する。
- * 是非とも積極的に行ってください。
- * ・定期的に実施すると回答も形式的になる。・記名にするとべんちゃら、よいしょが多くなる。・好き嫌いではなく正当に評価させるのはむずかしい。・「学生による授業評価」の実施については基本的には賛成する。
- * もしやるならば、悉皆調査でなく標本調査、かつ、無記名でなく、記名調査によるべきと思う。
- * アメリカと異なる環境の日本で、アメリカと同様の方法を採用することには反対する。勉学の意志ときちんとした出席をしている学生にアンケートの資格を与えるべきだ。一律のアンケートではなく、各教官が自分の必要に応じた内容で実施すれば良い。
- * 学生による授業評価は、信頼性が低いので、利用価値は限定されると思う。一度はやってみる価値はあるが、貴重な授業時間なので簡単なものからスタートするのがよいと思う。
- * 学生のレポートを読む限り、単純に楽な授業が良いとする学生が何割かは存在する(2~3割か?)。この点を考慮しない場合、「学生による授業評価」の実施は講義の改悪につながる可能性が残念ながらある。
- * 学生による授業評価が授業のよしあしと高い相関をもつわけではないであろう。学生による授業評価を行う意味と使い方を、よく言われていることであろうが、常に周知・徹底させておくべきだろう。
- * 私は、われわれ教官が学生に行う授業の目的を次のように捉えている。「教官が教えることが可能な(1)内容を学生になるべく分かり易く(2)、かつ、後で学生が自分で利用可能なように(3)教える。」(1)：人間はだれでも限界があり、多くを要求されても無理な場合がある。(2,3)：これらを実現するためには、題材の選び方、導入の方法、説明方法、などを工夫する必要がある。自分の担当する授業に対する学生さんの意見を聞くことは学生、教官の双方にとって有意義なことと思っている。そこで上記の(2,3)を実現するにはどのように具体的に対処すれば良いのかが、結果として分かるような「学生による授業評価」(があればそれ)を望みます。
- * 昨年度の経緯をよく考えてから実施の是非を考えて頂きたい。
- * この10年くらいの間、授業中で1年に2, 3回、アンケートを出席学生にのみ、書かせている。題は、授業あるいは講義への、感想、批評、質問、希望などである。だいたい20分くらいで書いてもらう。その目的は、少し成績に算入してあげようということであり、ついでに、自分の授業を改善しようということである。実際何人の学生が出席しているかも分かる。これは

出席をとっているのではない、と学生には公言している。だが実際は出席以上の役割がある。実際これを書いて貰ってから、まとめて、授業中に、少し時間を使って、質問に回答している。これは学生は大変歓迎している。学生の希望のうち、自分で改善できるものは改善しようとしている。これを出さなかった学生、つまり当日出席しなかった学生に、何かの本を読んだの感想文を出させている。そうすると、その後ほんの少し出席が増える。授業上の質問をつまみ、学生の意見を紹介すると、出席学生は、同クラスの学生はそんなことを考えているのかと知れて、参考になるらしい。

- * 簡単に「鬼」になったり、「仏」になったりするらしいので、果たして本当に有効か否か疑わしいと思う。
- * 非常に大切なことであり、是非とも行うべきである。成績を出してから行わないと、学生は本当のところを書いてくれないので注意が必要。
- * それぞれの授業科目（講義、演習、実験、実技等）の特性によって設問方法や学生評価が異なる点を十分に留意する必要があるだろう。
- * 優良可とか評点だけなら、授業の良否の一方的な序列化になる。判定の基にする項目をよほど注意して設定する必要がある。一般的には、すすめてよいと思う。
- * 基本的には賛成ですが、学生のためを思って厳しい態度をとっている教官が低い評価を受けたり、逆に学生に迎合した授業で学生から高い評価が得られることがあり、それ自体はかまわないのですが、それが教官評価につながるならば本末転倒であると考えます。私自身は他大学（非常勤講師）で「学生による授業評価」を受けています。必要であれば資料を出すことは差しつかえありません。
- * 本学の学生が授業評価できるかどうか、授業の受講状況、態度等からして甚だ疑問である。
- * 大ざっぱな（「よい悪い」というような）項目ではなく、小さな（マイクの使い方、教室の大きさ、参考文献の紹介など）項目を多数用意することによって、授業の改善につながる可能性はあると思う。ただし、教員がそれぞれ自主的に行うべきことであるように思う。
- * ・学科別にすること、・科目毎に学生の選択動機も聞くこと、・教官の勤務評定に利用しない（されない）条件を確立すること。
- * 学生のニーズにあった授業内容にするには、この評価制度を導入すべきだと思いますが、出席もあまりしない意識の低い学生からの評価は区別できるようにすべきだと思います。
- * 個別の授業や教官に対する評価と、カリキュラムや時間割上の問題点を区別すべき。後者の制約から仕方なく履修している学生から、授業内容や方法について正当な評価が得られるのか疑問である。
- * 「学生による評価」を論ずる際、しばしば耳にするのは、評価制度そのものは革新的であり歓迎すべきものであるが、未だそこに到らない保守的な頭をもった人々がいるという議論である。だが、評価制度推進の裏に、政府の意図に迎合して少しでも予算を獲得しようとする狙い

がある限り、評価制度推進自体が極めて保守的であることを知るべきだ。こうした卑屈な狙いに基づく「学生による評価」は、大学教育そのものを卑屈で功利主義的なものに墮落させる恐れがある。残念ながら本学にも、こうした卑屈な狙いがあることを感じないわけにはいかない。事あるごとに、本学存亡の危機意識のみを煽りたて、上からの管理統制に迎合して、教官の教育・研究の主体性を削ぐがごとき雰囲気がある。小樽商科大学は、創設以来、その自由闊達な研究活動とリベラルな教育において、全国に名声を馳せた輝かしい伝統をもつ大学である。官僚の目に一喜一憂するような臆病な雰囲気の中での全学的な「学生による授業評価」の実施に、私は強く反対するものである。

- * 個々の教官が個別に自らの授業について学生の意見を聞く、というのは、自己反省、研修として大いに意味があると思うが、はたして全学的にこれを行ってどういう意味があるのか甚だ疑問である。学生が主体となって行うというのなら理解できるが、教官側が主導して行うのは、何か本来の自己研修という意味とは異なった意図も感じられるように思う。「授業評価」の結果をどのようにまとめ、公表し、今後どう利用するか、全学的なコンセンサスが得られないかぎり、実施すべきではないと思う。さらに、「良い授業」、「立派な講義」というのは多数決で決められる性格のものではない。学問分野によっても異なるし、学生個人、教官個人によっても多種多様であろう。また、本来の学問体系から見ても大きな差異が生ずるはずである。これを多数決で選んでも何の意味もないと思う。
- * 学科ごとにまず調整する必要があります。形式を各個人に一任し、やったかどうかをチェックするこのアンケートのようなものを、定期的に（年2回）行うことをまず第1ステップとし、自然に各教官が個人のレベルでどんなことをしているか話し合っているうちに、統一した形式が2、3年のうちに煮つまるのでは？。
- * 是非実施すべきである。理由：①フィードバックのため（学生のための授業なのだからそれが十分に機能しているか否か、どこに改善すべき点があるかを学生の意見によってチェックするのは当然。） ②教官の教育業績評価の一環として（「教育評価」は容易ではないが、教育が大学の主要な使命である以上、「研究」のみによる粗雑な評価だけでは大学は空洞化するばかり。教育の自己評価（個々の教官による）は別途考えるとして、より重要な他者評価（学生による）はできるだけ早く導入すべき。「学生へのすり寄り」論は、現在の安楽な教育体制を守ろうとする意図に発するようと思われる。「学生による授業評価」の理念は、情報公開による教育の質的向上にある。「オープン化」すれば授業の質は高まり、学生との信頼関係が醸成される。ほんの一握りのヒネクレ者はどこにでもいる。

付録 「学生による授業評価」等の実施状況に関する調査表

I 「学生による授業評価」（またはそれに類したアンケート）を実施したことがありますか。

- イ ある
- ロ ない

II Iで「ある」と答えた方にお尋ねします。

- (1) どのような間隔で実施しましたか。
 - イ 毎年（定期的に）
 - ロ 随時（必要に応じて）
- (2) 学生による授業評価は適切に行われたと考えますか。
 - イ 適切であった
 - ロ 不適切な点もあった
- (3) 授業の改善に役立ちましたか。
 - イ 大変役立った
 - ロ 多少は役立った
 - ハ ほとんど役立たなかった
- (4) 実施した際、どのような問題点が生じたか。

III 「学生による授業評価」を全学的に実施することについて、ご意見がありましたらお寄せ下さい。（全員にお尋ねします。）

※ なお、さしつかえがなければ、アンケート資料を1部添付していただきたくお願い申し上げます。

以 上